



あいば 道博 みちひろ

私は、昨年9月まで小諸市役所の職員でしたが、現在の市の財政状況や人口減少などを考える度に、小諸市の将来に対する危機感が日増しに強くなりました。このままでは、小諸市は消滅都市になってしまう。「小諸」という名を、子や孫の世代まで残すのが我々世代の責任、との思いから、市役所を早期退職。退路を断ち、小諸市長選挙の挑戦を決意しました。

今、小諸は 踏ん張る力のある人、まちへ 踏ん張りどころ。

3つの課題 ● 経済の衰退 ● 人口減少 ● 公共施設の老朽化

まず、市役所組織の再構築
現在の市役所組織は、副市長も教育長も不在。部課長の早期退職も多く、組織の立て直しが急務。車に例えると、エンジントラブルの状態。政策実現という目的の地まで達するには、まずエンジントラブルの解消が先決です。副市長にはシテイマネージャー（行政経営の専門家）を据え、職員と一体となって政策を実現可能にする仕組みを作ります。

同時に、人財育成・人財誘致

政策実現には実行する人が必要ですが、現在、実行する人が不足。車に例えると、ドライバーがいない状態。すでに小諸市では「小諸まち・ひと・しごと創生総合戦略」などの計画がありますが、問題は「誰が実行するか」です。人材が非常に重要です。人材育成するために、21世紀の小諸義塾を開校し、専門家を講師に迎え、勉強会を開きます。また、若手起業家の参加を募り、既成概念に捕らわれない自由な発想で、まちづくりを進めます。

新しい結を生む住民自治を

地域の課題を市民が主体的に考え、行動することが地域を元気にします。小さなアイデアを地元の人たちと「一緒にひねり出し、取捨選択、組み合わせを繰り返して、人と人がつながる新しい「結」が生まれる環境と活動を支援する仕組みをつくりたい。そして、この新しい「結」が地域を支えるコミュニティサークルに成長するとき、足腰の強い住民自治が小諸に根づきます。

踏ん張る力はまだまだあります。その気持ちを、今、ひとつに

私たちの一番大切な財産は、市民ひとりひとりの「相手を思いやる心」と、退職後にたくさんの方々とお会いしてつくづく感じました。この「相手を思いやる心」を失わない限り、解決できない課題はないと信じています。

小諸市民43000人が「生きがい」「働きたい」「住みがい」のあるまちを目指して、自分のできることを自らすることが、新しい小諸づくりの第一歩です。

- 子育て支援／官民協働による「子育てしやすいまち」づくり、自然教育の導入
- 医療と福祉を核として／まず健康診断受診率の向上
- 官民連携で中心市街地再開発／文化施設の活用
- 自動運転試験地域の誘致
- 公共施設の更新費用削減／官民連携
- 空き家対策／アドバイザーの設置
- コンパクトシティ型CCRCの導入／仕事、若者、高齢者のつながりと環境づくり

小泉がやれば小諸は変わる！ こもろ未来プロジェクト

基本政策 5つの柱

- 1 市役所の改革と健全財政
- 2 自治会と市政の連携強化
- 3 幸福を実感できる市政を実現
- 4 産業振興と起業・就農支援
- 5 情報戦略で観光・ブランド活性化

佐久広域との連携を強化！

国会議員秘書の経験と人脈を最大限に活かす！

民間出身の新鮮な市政！

小諸に「元気」と「誇り」を!!
私達の住む小諸は、今まさに、「元気」と「誇り」を失っています。人口減少・少子化・高齢化へと変動する社会情勢の中、大きな事業を終えた小諸市は、いよいよ市民と共に知恵を絞りながら市民の幸せのための内政充実をしなくてはなりません。



小泉としひろ (52歳)

1963年(昭和38年)生まれ 52歳
行政書士・ファイナンシャルプランナー
家族：5人家族／妻・長男・長女・次女
2004年小諸市長選にて得票数 11,217票 (348票差にて次点)

- 学歴
・小諸市立美南ガ丘小学校卒業・小諸市立小諸東中学校卒業
・長野県野沢北高校卒業・駒澤大学法学部法律学科卒業
- 主な経歴
・厚生大臣 衆議院議員井出正一氏秘書
・長野県行政書士会理事
・小諸商工会議所青年部会長
・長野県商工会議所青年部連合会会長
・美南ガ丘小 PTA 会長 (40周年実行委員長)
・小諸市消防団第5分団森山部前任班長

ホームページ [小諸ぷらいど](#) [検索](#)

市民が主役の小諸に変える！



大森あつなり 39歳



お約束
○市民満足度を県下一にする
○地域に予算をつける
○財政赤字を解消する
そのために、独自の運営プロセスの徹底見直しで実現。

子ども医療費窓口無料化実現
財布を持たずに病院に行けます。500円の自己負担を撤廃します。

高齢者の家事援助サービスの実現
介護保険の支援も介護も受けていない方に買物、洗濯、ゴミ出し等の家事援助サービスを実現します。

小学校を地域の拠点に
小学校を防災と世代間交流の拠点にします。いざと言う時の情報・医療・食料飲料の備えと共に高齢者から囲碁・将棋・お手玉等の伝統遊びも伝えて頂きます。

長野県一の教育先進都市に
教育予算を二倍にします。学力・英語力を身につけるため、補助教員を充実します。

市役所は最大のサービス企業
プロフェッショナルな職員を育てて、市民の要望や意見に迅速に対応いたします。

プロフィール 小諸生れ、小諸育ち
一級建築士 三児の子育て中
〔学歴〕野沢北高校、東京工芸大学工学部卒業
〔職歴〕セイケンハウス(株)代表取締役
〔活動歴〕佐久バスケットボール協会理事
小諸商工会議所2号議員
一般社団法人信州木造住宅協会事業委員、
〔家族〕母(いー) 妻(沙織)、
長女(里香)、次女(玲花)、長男(俊太郎)

